

先哲
格言
修身要訓

中村鼎五編

五

大日本教育會館

七册	三〇號	二架	一八函
----	-----	----	-----

25

378

K110.1

106

5

K110.1

294



先哲修身要訓 卷五

中村鼎五編

第一章

○身體髮膚之と父母小
受く、敢て毀傷せざるハ、
孝の始ふ也 孝經

先哲修身要訓

卷五

中村鼎五編

○身を立て道と行ひ、名
 と後世ふ揚げ、以て父母
 を顯すは、孝の終なり 同上
 ○君子は百行の中、恩と
 報どると大ふりと以、人
 若恩を忘るゝと阿らば、

其餘は觀るふ足らむ 慎思錄

○君子は忠し、親ふ孝する

も、君父の恩と報どる道

な 里訓 初學

○孝は親を養ひ、其志よ

順ふよもとづく 畜徳錄

○君小事ふる者、事と擇むば、
て、之と安んぶるも、忠の盛なるあり莊子

○忠臣の以て其君小事へ、孝子の以て其親を事ふ、其本一なり禮記

第二章

○君子動けば則敬を思ふ、行へば則義と思ふ左傳

○人忠信無きと起り、世ふ立つるらず薛文清語

○言忠信ふして、行篤敬

なれば、蠻貊の邦と雖行
こゝる 論語

○言忠信ふらび、行篤敬
ならざれば、州里と雖行
とれず 同上

○嚴々非ざれば、以て己

と持つ可らば、和ふ非ざ
れば、以て物と接する可

らず 初學
知要

○世ふ交はるふを、和し
て流まざるを、善と以、和
まれば人又背りず、流ま

ざれば道と失はば大和俗訓

○義を見て爲ざるは、勇

ふきなり論語

第三章

○夫禮義廉恥は富足ふ

生じ、貪汚侵奪は貧困よ

起る、富足は儉約より生

じ、貧困は奢侈より起る

初學知要

○孝悌忠信は、身と立つ

るの大本ふして、禮義廉

恥は、己を行ふの先務ふ

里 省心
雜言

○凡人小接する小ハ、愛
敬と以て道と以、愛ハ是
人を惡まず、仁の發なり、
敬ハ是人と慢らど、禮の
實ふ也 初學
知要

○人の人たる所以のも
此ハ、禮義ふ也、禮義の始
ハ、容體と正しくし、顔色
を齊へ、辭令を順ふとる
小何也 禮記

○義と先ふして、利と後

ふむる者の、榮へ、利と先
 よして、義を後ふする者
 の、辱しめらる、榮へる者
 の常ふ通じ、辱志めらる
 者、の常ふ窮を 荀子
 ○事來らば大小と問と

ぞ、即當ふ之と揆るふ義
 と以てす 論語
 ○人の能いざる所を責
 め、人の短ふる所と誹る
 の、是人の喜ばざる所ふ
 して、恨と取るの道ふと

慎思
録

第四章

○君子の先擇て後小交
る、小人の先交て後小擇
ぶ、故よ君子の尤寡く、小
人の怨多し

文中
子語

○交游其人小非ごまば、
豈たゞ己小益なまのみ
ふらんや、久くして之と
相化し、其守る所と失ふ
小至る

初學
知要

○朋友の難けまば、相助

け、患あれば、相救ふべし

初學訓

○人と責むるの心と以て、己を責むる道と盡し、己と愛するの心と以て、人を愛すれば、仁と盡

張子語

○智の目の如く、能百歩の外と見るも、自ら其睫を見るに能く、故小知るとの難き、人と見る小在らざりて、自ら見る

小在里

韓非子

○事と爲との始、輕卒苟
且ふれば、則必過誤多く、
後來悔ふ任へず
初學知要
○其徳と害ふものい、必
しも大事ふ止らざ、然ら

ば則細行豈は、しまざ
る可けんや
同上

第五章

○志士の常に時と惜む、
愚者の常小時を廢つ
初學知要
○千里の道も一步より

始む、志と立て、道を學
ば、遂ふ遠大に至る處

し 大和 俗訓

○ 頭歩休まざれば、跛鼈
も千里、累土輟まざれば、
岳も崇と成む 荀子

○ 人の學進まざるは、只
是勇ならざればなり 程子 語

○ 學と爲ふは、當ふ志を
立るを以て、先とすべし、
苟悠々として、空しく歳
月と度り、人の爲ふして、

先哲修身要訓 卷五 中道堂藏板

己が爲小せども、んば、豈事

と成さんや初學知要

○夫人飲食逸居して、世

小補無ければ、則蠢然

たる天地の一蠹の如、豈

自ら恥ざるべらんや同上

○學で思もざれば則罔

く、思ふて學ばざれば則

殆し論語

第六章

○孝の百行の本ふり、故

小人として孝ならざれば

ば、其本まづ絶也、他の善
 行良才ありとも、観る小
 足らず初學訓
 ○人臣君小事ふるよ、
 當ふ忠と竭し誠を盡と
 べし、細事と雖欺く可ら

ば、曲禮と雖皆當小謹む
 べし從政名言
 ○身禮と用ゐどして、禮
 と人小望え、身徳を用ゐ
 ずして、徳を人よ望む、
 亂を家語

先哲多身要言

卷五

三

中近堂藏友

○事大小となく、纔ふ心
 又安ぜざる所あるを覺
 へば、便斬絶してなすこ
 と勿れ、此の如くそれば、
 乃其本心と遂ぐるると
 得蓄徳録

○人能く欲と枉げて、禮
 小從へば、福之小歸し、情
 又順ふて、禮と廢されば
 禍之小歸す勸善書
 ○一瞬息の間も、未嘗て
 父母と忘れざれば、瞬息

の過ふく、一毫髪の事も、
 未嘗て父母を忘まざれ
 ば、毫髪の過なし畜徳録
 ○盛年重ねて來らば、一
 日再び晨ふり難し、時ふ
 及で勉勵と爲し、歲月人

と待よば

陶淵明語

先哲
 格言
 修身要訓卷五
 終

官許

東京中道堂

信守

此實印
不書
直取
精

明治十八年一月二十二日版權免許
同年三月出版

定價金五錢五厘

編者

滋賀縣士族

中村鼎五

出版人

東京府士族

中島精一

發兌

東京銀坐三丁目
大阪備後町四丁目
名古屋東本壽三丁目
中近堂支店
中近堂支店
中近堂支店

東京通三首 全芝三島町 全本町	丸善商社 山中市兵衛堂	東京橫山町 全油町	出雲寺萬次郎
全通三丁目 全通二丁目 全馬喰町	縮田佐兵衛 北畠茂兵衛 石川沼兵衛	大阪備後町 全南久壽町 栗河原町 全寺町	水野慶次郎 梅原龜七 前川善兵衛 大黒屋太郎右衛門 田中沼兵衛
賣	肆	書	

先哲
 格言
修身要訓
 中村鼎五編
 六

館藏書台行款本目
 一八函
 二架
 三〇號
 七册

257

378

K110.1
 106
 6